

質疑応答表

《資料1に関する質疑：5件》

No.	該当箇所	質問・意見	回答	担当課
1	資料1の19ページ 「の施設の設置候補地」について 【後藤委員】	場所、駐車場の広さ、災害リスクなど、他の比較検討箇所に比べると支障が少なく、異論はないが、周辺に住まわれている方への説明は必要と考える。トラブル回避のためにもお願いしたい。 ※トラブル例 ・施設利用者の運転マナーが悪い など ・こどもの声がうるさい	この基本構想をもとに、基本計画、基本設計、実施設計と進めていく予定。 その過程の中で、パブリックコメントや住民説明会の実施を予定している。 こども家庭庁発足後、こどもまんなか社会の実現に向けて、本市としても、リスクの排除を検討するのではなく、地域としての子育て・地域でこどもを見守っていくという意識づけを行っていききたい。	こども保育課
2	資料1の26ページ 人員体制について 【後藤委員】	人口減少が進む中、専門的な資格（保育士）を持つ人も減り、求人が集まらないことが想定されるが、人員確保に向けて何か考えがあるのか。	管理運営については、公募型プロポーザル方式により指定管理者を選定する予定。 基本計画の策定において十分に検討し、指定管理者の選定に反映させたい。	こども保育課
3	資料1の13ページ 表の中（相談・連携づくり内） →「●障がい児や医療的ケア児支援（専門員の配置、連携）」について 【安藤委員】	24ページの「③相談支援ゾーン」の記載以外に、詳細な説明をお願いしたい。	質疑「No.2」と同様。 管理運営は公募型プロポーザル方式により指定管理者を選定する予定としており、専門員の配置等については、担当課とも十分協議をしながら、先進事例などを踏まえ、基本計画の策定において、より具体的に今後検討し、指定管理者の選定に反映させたい。	こども保育課
4	資料1 ・P13 表の左下 →「●災害や安全対策と食材や用具の備蓄」 ・P18 ⑤「地域と連携がとれた施設づくり」内 →地域住民が安全に避難できるよう「避難所指定」をめざした施設づくり ・P37 避難所等として利用できるようにしてほしい（市民ニーズ） 【椎葉委員】	資料1の中で左記の記載があるが、避難所指定に向けて具体的な計画はあるのか。 →・福祉避難所としての利用を考えているか。 ・非常用電源の設置は考えているか。 ※現在、延岡市内で非常用電源がある施設は、2施設のみ（延岡市役所保健センター、県立延岡病院）と把握している。	今後、基本計画のなかで検討しなくてはならない部分だと考えており、危機管理課をはじめ、関係課と協議をしながら進めていきたい。	こども保育課
5	資料1の20ページ 駐車、駐輪場について 【丸山委員】	37ページのアンケート結果の中で一番件数が多いのが「駐車場を広くとってほしい」であるが、利用見込と駐車台数のバランスはとれているのか。	えんキッズの利用見込と駐車台数との比較、また、施設の規模感から、検討委員会において、40台でとの結論に至っている。 一方、（仮称）こどもサポーターや（仮称）遊び・学びのコーチを広く公募することとしており、スタッフ分の駐車場確保等も必要と把握しており、今後、市営住宅集約化の余剰地の状況等を踏まえながら、基本計画において検討していきたい。	こども保育課

《資料2に関する質疑：1件》

No.	該当箇所	質問・意見	回答	担当課
1	資料2-①のB 変更理由「保育士不足」について 【松原委員】	保育士不足への対策（動き）を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・小田原短期大学延岡スクール（令和2年10月開校）の誘致による、地元での保育士養成 ・「保育人材確保支援強化事業（R4～）」による、就職準備金の助成や、市外保育士養成校での就職セミナーの開催 ・保育士の働き方改革を進めるための、ICT機器の導入に係る補助金支給 など 	こども保育課

《資料3に関する質疑：13件》

No.	該当箇所	質問・意見	回答	担当課
1	資料3の7ページ No.56「ショートステイ・トワイライトステイ事業」について 【松原委員】	市民（特に子どもを持つ保護者）への周知方法を教えていただきたい。	子育てガイドブックにて周知している。保護者より直接相談があったり、関係機関が相談を受けた際に子ども家庭サポートセンターにつき、同センターが家庭の状況を確認したうえで利用申請を勧めている。	子ども家庭サポートセンター
2	資料3の20ページ No.137「障がい児短期入所事業」 No.138「障がい児日中一時支援事業」について 【安藤委員】	No.138の障がい児日中一時支援事業の支給決定者に比べて、No.137の障がい児短期入所事業の支給決定者の数が極端に少ない理由はなぜか。 受入施設の定員数が限定されているのか、それとも利用ニーズがないからなのか。	両事業について、受入れ施設数が日中一時事業の方が多のが現状で、受入れ定員数は決まっている。 短期入所は、宿泊を伴うもので、日中一時に関しては、放課後等デイサービス事業所等で受け入れている。 受入れ施設数も年々増加しており、ニーズに対してほぼ充足している状況であるが、今後も引き続きニーズの把握に努めていきたい。	障がい福祉課
3	資料3の2ページ No.16「劇団四季の延岡公演」について 【松原委員】	鑑賞する児童の対象を中学生までに拡大していただけないか。	劇団四季の公演は平成21年度から実施しているが、当時から小学5年生を対象としている。会場の座席数と児童数の関係のほか、劇団側から会場設営等に関する要請もあって、現時点では対象学年の拡大は考えていない。	学校教育課
4	資料3の21ページ No.151「幼児ことばの教育の運営」について 【松原委員】	幼児ことばの教室の指導者に、言語聴覚士はどの程度配置されているか。	3名の職員のうち、言語聴覚士の資格を有する職員は1名である。	学校教育課
5	資料3の2ページ No.19「スクールカウンセラーの活用」について 【河野委員】	中学校でも、突然の不登校や校内での子どもたちの不安定な状況など、問題になる。 市内全ての小中学校に養護教諭的な位置づけで、スクールカウンセラーを配置できないのか。	・現在、県教育委員会が配置する6名のカウンセラーを市内全中学校に派遣しており、希望に応じて小学校にも派遣できるようになっている。 ・本市ではスクールソーシャルワーカーや生徒指導支援員を独自で雇用しており、不登校等の児童生徒とその保護者の支援に努めている。R6当初予算において、SSWの人員増、生徒指導支援員の勤務時間の増加について計上している。	学校教育課
6	資料3の4ページ No.35「のべおか子どもセンター事業」について 【松原委員】	令和4年度決算額と令和5年度当初予算額を比較 →予算削減の理由はなにか。	令和4年度は子どもセンター20周年記念事業を実施したため。 ・記念紙 125冊発行 ・親子体験活動「子ども職業体験」 参加者46名 （寿司屋、花屋、スポーツトレーナー） ・子育て講和記念講演	社会教育課

7	資料3の17ページ No.113「子ども110番・おたすけハウス」について 【河野委員】	この施策についての具体的な事業内容を教えていただきたい。 また、校区ごとのマップなどあれば、拝見したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・「宮崎県子どもの安全を守る連絡会」が行っている事業で、「宮崎県PTA連合会」が事務局を担っている。具体的な活動は、各小学校がリストと「こども110番 おたすけハウス」のステッカーを管理し、希望する店舗、民家に配布貼付してもらうこと。 ・毎年協力者の継続について確認を行っている。協力者が被害を受けた際に見舞金を支払うための保険をかけている。 ・マップについては市では作成していない。個別校区ごとに作成しているところもあると思われる。 	社会教育課
8	資料3の4ページNo.36、6ページNo.47 「保育士等養成校誘致事業」について 【松原委員】	小田原短期大学の卒業生で、市内勤務者の人数を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・就職先については、大学側が公表していないため詳細は把握できていない。 ・「保育人材確保支援強化事業」による就職準備金の支給を受け市内の保育施設に就職した人数は3名。 	こども保育課
9	資料3の25ページ No.3「働きやすい保育所等づくり緊急 応援事業」について 【松原委員】	<ol style="list-style-type: none"> ①保育園3園に補助をされているが、これは希望園のみか。 ②障がい児通園施設と保育所の両方で、保育を利用しているこどもが在園している保育所の加配はどうか。 	<ol style="list-style-type: none"> ①補助対象となる保育補助者や保育支援者を採用した全ての施設に補助している。 ②障がい児通園施設と並行通園しているこどもが在籍している施設が18施設あり、そのうち14施設で職員を加配して保育を実施している。 	こども保育課
10	資料3の1ページ No.7「水辺環境調査」について 【松原委員】	のべおか子どもセンターと合同開催の予定はないか。	水辺環境調査は、小中学生の参加を基本とし、学校単位での申し込みを受けて実施してきたものであり、今まで、のべおか子どもセンターとの合同開催は考えられていなかったが、今後、センターと協議を行い、必要に応じて検討していきたい。	生活環境課
11	資料3の1ページ No.9「環境子ども会議」について 【河野委員】	とても大切な活動だと思うが、南方小だけを対象にしているのはどうしてか。	「環境子ども会議」は、南方小学校が主催で行っている学校行事の1つであり、依頼を受けて、当課から職員が出向く等、会議に協力している。 今後は、他の学校においても、当会議の実施にあたって、当課への協力依頼があれば、対応させていただきたいと考えている。	資源対策課
12	資料3の4ページ No.34「社会福祉援助技術現場実習」 について 【松原委員】	名称を「ソーシャルワーク実習」に変更してはどうか。	「社会福祉援助技術現場実習」は、カリキュラムの変更により、令和5年度から「ソーシャルワーク実習」に変更されているが、計画の項目が「社会福祉援助技術現場実習」であり、令和4年度の実施状況等を記載するものであったことから、同名称を使用したもの。今後は、名称の変更を踏まえて記載したいと思う。	総合福祉課

13	<p>資料3の3ページ No.22の事業内容の記載内 「文化庁助成事業」について</p> <p>【松原委員】</p>	<p>令和5年度、延岡市内で文化庁助成事業は、何件あったか。</p>	<p>4件</p> <p>①市内遺跡発掘調査事業 4500千円、国1/2 市内の各種開発事業に伴う試掘確認調査</p> <p>②市内遺跡出土遺物保存処理事業 1000千円 国1/2 市内の発掘調査で出土した鉄製品、木製品等の保存処理</p> <p>③地域文化財総合活用推進事業 【地域文化遺産・地域計画等】 3721千円（国） 地域の伝統文化や文化財を活かして文化振興とともに地域活性化を推進する事業 *R5年度は3団体が活用</p> <p>④伝統文化親子教室事業 8708千円（国） 日本の伝統文化の継承と振興を図り、主に小・中学生向けに教室を開催する団体へ助成する事業 *R5年度は19団体が活用</p> <p>※①および②は文化財・市史編さん課、 ③および④は歴史・文化都市推進課が担当</p>	<p>歴史・文化都市 推進課</p>
----	--	------------------------------------	--	------------------------

《資料4に関する質疑：1件》

No.	該当箇所	質問・意見	回答	担当課
1	<p>資料4<こどもの意見を反映させるための措置（例）>内 「こどもや若者を対象としたWebアンケート」について</p> <p>【松原委員】</p>	<p>対象の年齢を教えてください。</p>	<p>「こども基本法」では、第2条に、<u>こどもとは、心身の発達の過程にある者と定義されているので、18歳未満に限らず、先進自治体の取組みも参考に対象者を検討していきたいと考えている。</u> また今後、こども計画策定に係るプロポーザルで業者を選定していく予定であり、受託業者とも相談しながら進めたい。</p>	<p>こども保育課</p>

《その他（資料以外）に関する質疑：5件》

No.	該当箇所	質問・意見	回答	担当課
1	ヤングケアラーについて 【松原委員】	ヤングケアラーの実態調査及び対応について、ご説明いただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に県がヤングケアラーの実態調査を行った結果では、小学校6年生が4.2%、中学2年生が3.5%、高校2年生が3.9%であり、1クラスに1名ほどいる割合であった。 ・同年度に市が実施した子どもの貧困対策推進計画策定時におけるアンケートでは、「家族の大人の代わりにに行っていることはあるか」の設問に対し、「家族の代わりに幼いきょうだいの世話をしている」割合が小学5年生で9.7%、中学2年生で3.8%であり、「目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている」割合が小学5年生で3.5%、中学2年生で1.1%いる等、一定割合でヤングケアラーとなっている児童生徒がいることが確認できた。 ・令和5年度よりヤングケアラーコーディネーターを当センターに配置している。また社会福祉法人に事業委託し相談先の一つとして「ヤングケアラー相談あいいく」を開設し、学校の先生や児童・生徒に周知している。 ・対応の事例としては、多子世帯で支援を開始したケースにおいて、児童が幼いきょうだいの世話や家事をしている等ヤングケアラーであることが発覚し、現在、母親と調整しながら支援対象児童等見守り強化事業やフードバンク事業の紹介、要保護児童対策地域協議会の名簿に登録し所属する学校や保育園から定期的に報告を受けている事例がある。 	こども家庭サポートセンター
2	こども食堂について 【松原委員】	こども食堂との連携や市内助成について、ご説明いただきたい。	<p>令和6年2月末現在、延岡市では6つのこども食堂が活動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>フードドライブの実施</u>：令和4年度から、市役所2階なんでも総合相談センター前に食料品回収ボックスを設置し、庁内外から食料品、日用品等の寄付を募り、こども食堂等こどもの支援団体へ受け渡しを行っている。 ・<u>令和5年7月にこども食堂（子育て支援団体）意見交換会実施</u>：コロナ5類移行後のこども食堂の運営や状況の変化、夏休み期間中のこども食堂の運営について聞き取った。また、夏休み期間中のこども食堂の運営状況については、カレンダー状にまとめ、市公式LINEで発信した。 ・<u>のべおかコインを使用した寄付事業</u>：のべおかCOINのユーザーが保有しているポイントを使って社会貢献活動に寄与する団体に寄付できる機能を活用し、ボランティアで子ども食堂を運営している6つの団体への寄付を実施している。（令和5年10月～令和6年3月） ・<u>こども食堂への寄付連絡等とりまとめ</u>：市民や企業よりこども食堂への寄付の相談があった場合、各こども食堂にお知らせしている。 	おやこ保健福祉課

3	<p>こどもへの虐待について</p> <p>【松原委員】</p>	<p>虐待防止のための市の取り組みについて、ご説明いただきたい。</p>	<p>・子育てガイドに児童虐待予防の啓発に関する記事を掲載するとともに、当センターの連絡先を掲載している。</p> <p>・母子手帳の交付時や健診時等に気になった世帯の継続的支援を行うとともに、要保護児童対策地域協議会の名簿に登録し、ケース対応実務者会議で進捗管理を行いながら関係機関で情報共有している。</p> <p>・学校、保育園等や保護者からの相談については、その都度関係機関と連携し対応している。</p>	<p>こども家庭サポートセンター</p>
4	<p>待機児童対策について</p> <p>【松原委員】</p>	<p>0-1歳児の待機児童への対策を教えてください。</p>	<p>・0歳、1歳児の年度途中の入所が難しいという問題は認識しており、その問題を少しでも解決すべく、来年度の利用定員の調整の中で、3号の利用定員を32名増加した。</p> <p>・次年度以降も、引き続き、施設の理解を得ながら、3号の利用定員の拡充を図ってまいりたい。</p>	<p>こども保育課</p>
5	<p>全体を通して</p> <p>【河野委員】</p>	<p>子育て終了間近の私としては、延岡市のこども計画や支援等、羨ましく思う。今後もよろしくお願ひしたい。出来ることなら、中高生が集える場が増えると様々なトラブルも減るのかなと思う。</p>	<p>「南部地域における子育て支援拠点施設」については、<u>年齢等の制限を設けることなく、多くの市民の皆様が利用できる施設</u>を目指し、来年度事業計画の策定に向けた取り組みを予定している。しかしながら、設置の目的はあくまでも子育て支援なので、利用の方法等については、限定されるものと考えている。また、その他の市の施策として、<u>未就学児や小学生のみならず、中高生等も対象</u>として様々な事業を実施している「一般社団法人延岡こども未来創造機構」において、グローバルコミュニケーションなど先進的な取組を行っているので、是非参加を促していただきたい。</p> <p>そのほか、<u>中高生を含む、子どもが集える場</u>として、来年度、スケートボードや3on3バスケットボールなどが楽しめる「スポーツパーク」を整備する予定となっているので、こども達を取り巻く環境が少しずつ整ってきているのでは、と考えている。</p>	<p>こども保育課</p>